

スポーツ、知育教育としての麻雀の普及に関する研究
～子どもの習い事として麻雀を普及させるためには～

1220500 津貫祐人

指導教員 前田和範

研究背景

2018年、競技麻雀のプロリーグであるMリーグが開幕した。Mリーグの発足に伴い、今までギャンブルや酒、たばこなど悪いイメージを持たれがちであった麻雀の受け取られ方が変わりつつある。しかし、Mリーグの視聴者数は全人口の4%と少なく、まだまだ世間では麻雀＝ギャンブルというイメージが残っているのが現状である。世間で麻雀が、スポーツや知育教育として受け入れられるためには、競技麻雀の普及と発展を目的としたMリーグの発展が必要不可欠である。

研究目的

本研究の目的は、Mリーグの影響(認知しているか、視聴しているか)によって習い事としての麻雀の賛否、認識に差があるのかをアンケートを通じて明らかにすることである。また、それを元にMリーグが今後どのような運営戦略をとれば良いのかを考察する。

調査・分析方法

習い事をする年齢の子どもを持つ保護者を対象にアンケート調査を行った。

麻雀経験のある保護者は、主に子ども麻雀教室に通っている子どもの保護者から、麻雀経験のない保護者はスポーツクラブスタッフ及び利用者の保護者を対象とした。

分析結果

習い事として麻雀を習わせたいかどうかという質問において、Mリーグの視聴頻度が高くなるにつれて麻雀を習わせたいと答えた保護者が多くなっていることがわかった。この質問における意見では、Mリーグをよく視聴する保護者は賛成意見が多く、視聴したことがない保護者に反対意見が集中した。つまり、Mリーグの存在の認知や視聴経験により、保護者の習い事としての麻雀の認識に差が生じるという結果になった。

考察・結論

子どもに麻雀をしてもらうためにはまず保護者に麻雀を詳しく知ってもらうことが必要不可欠である。大人向けの麻雀教室をMリーガーが行い、身をもって麻雀の教育効果について知ってもらうと、理解を持つ保護者を増やせるのではないかと考える。また、Mリーグが理念に掲げているように、「頭脳スポーツ」としての競技麻雀の普及や、習い事という固いものではなく、気軽に麻雀ができる場所を作っていくことも重要である。